



シンガポール

NCB 海外レポート

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑥

～人々の生活を支えるスーパーアプリ～

◇ 東南アジアを代表するスタートアップのアプリ

- ・ スーパーアプリという言葉が近年聞かれるようになりましたが、これは日常生活に必要なあらゆる機能を統合して提供するアプリのことを指します。シンガポールでは Grab のアプリがまさにその象徴で、人々の生活に欠かせないものとなっています。
- ・ Grab は 2012 年設立のシンガポールに本社を置くスタートアップ企業で、当初は配車サービスから事業をスタートしました。2019 年にはアジア初のデカコーン（評価額 100 億ドル以上の未上場企業）となり、2021 年には NASDAQ に上場しました。東南アジア 8 カ国でサービスを展開しており、域内で 1.8 億人のユーザーを抱えています。

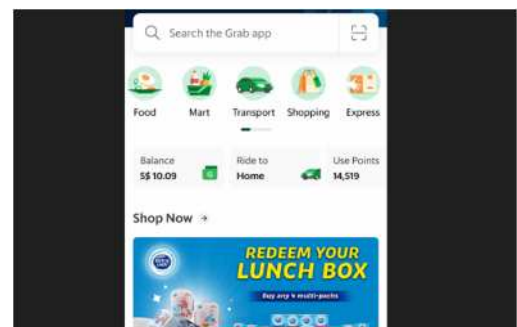
◇ アプリ内で利用可能なサービス

- ・ Grab はタクシー配車やフードデリバリーなど、移動や宅配、ショッピング EC のサービスがひとつのアプリで利用できるようになっています。
- ・ 特にタクシー配車とフードデリバリーサービスのシェアはそれぞれ 74%（※1）、48%（※2）と圧倒的となっています。シンガポールではタクシーの料金が安価で、日常の足として広く利用されており、また自炊の習慣があまりなく外食やテイクアウトを頻繁に利用するため、現地では Grab のアプリなしでは生活に支障をきたしてしまうほど浸透しています。
- ・ 2018 年にはモバイル決済サービス「GrabPay」の提供を開始するなど、金融分野への参入も果たしました。シンガポールでのモバイル決済市場に占める同社のシェアは 35%（※3）とトップで、街中で人々が「GrabPay」で決済する光景をよく目にします。
- ・ さらに Grab は、2022 年末にシンガポール初のインターネット専門銀行サービスを開始する予定です。Grab の銀行サービスが人々の生活にどのような変化をもたらすのか、また既存の銀行に対しどのような影響を及ぼすのかは未知数ですが、同社の動向はますます目の離せないものとなっています。

※1 Blackbox Research 調査（2021） ※2 Frost & Sullivan 調査（2021） ※3 The Asian Banker 調査（2021）



街中のフードデリバリードライバー



Grab アプリのスクリーンショット

2022 年 9 月 1 日作成

西日本シティ銀行シンガポール駐在員事務所